

世一緒 NOW

よ い し ょ ナ ウ

職場参加ビューロー・世一緒ネット通信 23号

学校、職場、地域

— 人の狭間で人として生きる —

6・22 総会記念シンポジウム、ワークショップを開催しました



6月22日（日）に開催された、NPO 法人障害者の職場参加をすすめる会総会では、職場参加のバトンを千間台の就労継続支援B型事業所「せんげん台世一緒」へしっかり手渡してゆくために、越谷の本部をその近く（最近まで探して千間台2丁目の陸橋通り沿いに確定）に引っ越して、密接に連携した動きをしてゆくことが決まりました。

以下では、総会後のシンポジウムを簡単に報告します。

シンポジストの皆さんは、まず思春期にひんぱんてんかん発作があった柴田美恵子さんです。つぎに、自閉症と診断され絶望し暴れた幡本建祐さんです。お二方とも、通常学級、高校で共に学んでいたからトラブルもしばしばあったのですが、だからこそ出会いも積み重ね、地域で共に働くことにつながったともいえます。

もうお一人のシンポジストは、竹迫和子さんです。「いまは特別支援教育に分けられているから、なおさら共に働けない状況が生まれている。県とか国に訴えているが力不足で、特例子会社とか福祉の方とか、働くところもどんどん分けられている」と語りました。

コーディネーターは、県立大学名誉教授の朝日雅也さんです。「障害者にはこういう配慮や環境が必要だって強調しすぎちゃうと、システム的なものになっちゃう」と述べられました。

仕事ができた時は幸せだった 理解がなくても働けますよ



柴田「最初お店に行ったところはいじめがあって、やめようと思った。仕事ができた時は楽しかった。伝票は書けなかった。品出しができたことは幸せだった。ほめられた。」

朝日「貯金はたまらなかった？」 柴田

「貯まらなかった。」

朝日「今はそういう仕事じゃなくて、今の毎日は楽しいですか？」

柴田「楽しいよ。お金なんかいらないもん。」

朝日「佐々商事で働いていたことは、人生においてよかったですか？」

柴田「よかった。理解がなくても働けますよ」 朝日「強い気持ちも大事ですね」

幡本「そんなに準備が整わなくてもいいと思う。」

もともと何が必要っていうのはわからない 一緒にいる中で考えていくもの

朝日「幡本さんは中学校時代に自閉症と診断され、それまでなんで医者に連れて行かなかったんだと両親を責めたり。部活で厳しい教員を恨み、通りがかりの子供に八つ当たりしたこともあった。ただ、高校の時にわらじの会と出会い、橋本克己さんの介助に関わる中で人との出会いを重ねた。そして、今は亡き糸賀さんに不幸自慢の部屋の助手を勧められ、自分を面白く感じられるようになった。常にフラッシュバックがあるが、職場でラインを止めてしまうのでクビになった。現在の職場は流れ作業ではなく騒音もあるので、フラッシュバックが妨げにならず仕事を続けられている。」

幡本「わらじの人の介助を重ねて、良い経験をさせていただいたと思う。今働いてる会社は2013年からだけど、段ボールで箱を作ったりしている。人間関係もいい。野球中継を見たりしている。昔の人や嫌なことや楽しいことをよく思い出す(フラッシュバック)。本が好きで村上春樹さんとか。自分の障害について興味があって、発達障害についてテレビや本を見ている。わらじに出会えたことはすごくよかったと思う。」

朝日「たくさん大事なことを言っていた。今の段ボールの会社はもう11年6カ月勤務されていると。ガサガサとしているからフラッシュバックの状況になってもそんなに気にならないと。実際はいろいろ思い出していると。でもそれは仕事に問題ないと。」

幡本「ないです。上司には怒られたんじゃないかと心配してくれた。」

朝日「特徴がよく理解されているのかもしれないね。あとは友人との楽しい時間、休みを充実させるためには仕事がいかにあるって大事ですか？」

幡本「そう思います。」

竹迫「もともと何が必要っていうのはわからないので、一



緒にいてる中で考えていくものだと思います。一緒に学ぼうというのはつきあいがわかるということだと思うんです。人の中で

トラブルがあってもなんとかしてゆこうということをお互い経験していくことが大事なのかなと。」

朝日「特別支援教育を望む人というのは、子供というより親ですよ。増えているというのはよく言われるのは、ちっちゃい時から専門的な教育を受けさせて地域で暮らしやすくするんだという意見について、竹迫さんはどう思われますか？」

竹迫「専門性が必要なものはあると思いますが、まず専門性ということと言っていくと、だんだんその子に合った教育というのは個別、1人1人に合わせたものになっていくとは思いますが、合理的配慮が言われるようになりましたが、本当は子供が子供とやった方が楽しいと思うし、一緒に育つ上での合理的配慮が必要だと思うのが、おかしい方向にいつていると思うのは、親もそっちの方向じゃないとだめだと思っている。親はそれがないと不安で普通学級でできませんよと言われると心配だから支援学級、支援学校に行かせると。」

朝日「合理的配慮って特定の場合その人が必要とする調整のことを言うんだけど、全体として見て障害者の子にはこういう配慮や環境が必要だって強調しすぎちゃうと、最終的には個別性の高いものが必要なんだけど、システムのようになってしまうと。竹迫さんみたいなお立場の先生って狭間の人ですか？主流ですか？」

竹迫「狭間の意味は深く考えてないけど、越谷養護にいた頃に高校入学の運動が始まって、県交渉とかに参加していた。泊まり込みやったり。その時にお前はなんでここにいるんだと言われた。悪い意味じゃなくて。どうしてだろうって。自分でもすごく矛盾した人間だなと感じながら。障害のある子どもだけが集まって大人に囲まれるより子供は子供と一緒に学校に行く方が楽しいよねと思って。」

朝日「狭間って窓って意味もあるんですよね。窓は小さくともいい。開け続けていることが大切と思いました」





第50回 共に働く街をひらくべんきょう会



「共に学ぶ」と「共に働く」の間

と き : 9月20日(土) 13:30~16:30

と ころ : 越谷市中央市民会館5階 第4, 5会議室

か い ひ : 300円 (資料代)

シンポジスト :

坂口佳代子さん (地域活動支援センターめだか施設長、車椅子ユーザー)

前田海里さん (どの子も地域の公立高校へ埼玉連絡会、会社員、難病)

松山美幸さん (主婦。子育てを挟み一般雇用と障害者枠雇用を経験、聴覚障害)

コメンテーター : 依頼中

手話通訳 : 依頼中

コーディネーター : 山下浩志さん (当会事務局長)

主 催 : NPO 法人障害者の職場参加をすすめる会

このところずっとお休みしていた「共に働く街をひらくべんきょう会」を行います。今回は夜ではなく、土曜の午後です。

この頃には、東越谷の職場参加ビューローは閉じて、せんげん台西の陸橋通りに新しい事務所を開いているはずで。

ですから、このべんきょう会の資料集で、新事務所に移ってからの活動計画なども、お知らせできると思います。

以前べんきょう会に見えた方も、初めての方も、どうぞおいで下さい。

全国交流集会とリンクした企画です

今回の「共に学ぶ」と「共に働く」の間 というテーマは、11月22・23日に開催される「第22回 障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会 IN 埼玉」(右のポスター参照)の第4分科会のテーマです。

この分科会の運営に関し、当会として関わることになっています。そのための予行演習を兼ねて、べんきょう会を開催します。

障害の医学、医療が進み、支援制度が多様に整備されるに従って、人と人がさらに学校で、職場、地域で分け隔てられ、より多くの人が生きづらさを深めて行くのはなぜでしょうか。

三人の方々の体験をお聞きしながら、みんなで考え合ひましょう。

で あ

出会えないのはなぜ？

だ い る ま か い し ょ う が い じ ふ つ う が っ こ う ぜ ん こ く れ ん ら い か い

第22回 障害児を普通学校へ・全国連絡会

ぜ ん こ く こ う り ょ う し ょ う か い

全国交流集会

in 埼玉

わけないで わけないで
あなたのつこうで わけないで

日時: 2025年
11月22日(土)、23日(日)

22日(土)
全体会: 13:00~15:30
分科会: 16:00~18:00
交流会: 18:30~20:00

23日(日)
分科会: 9:00~10:45
全体会: 11:15~12:30

会場: 岩槻駅東口コミュニティセンター

大宮駅から普通11分、急行8分
東武アーバンパークライン岩槻駅徒歩1分

連絡・問い合わせ先
Email: donokomo1987@yahoo.co.jp
090-4938-8689(大阪)/048-942-7543(竹迫)

主催: 障害児を普通学校へ・全国連絡会
障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会 in 埼玉実行委員会
共催: 埼玉障害者市民ネットワーク/(一社)埼玉障害者自立生活協会/埼玉高等学校教職員組合/埼玉教職員組合/埼玉教育労働者組合/みんな一緒に・埼玉連絡会/どの子も地域の公立高校へ・埼玉連絡会
後援: 日本教職員組合/埼玉県/埼玉県教育委員会/さいたま市/さいたま市教育委員会/DPI 日本会議/ビープルファーストジャパン
協賛: 坂戸たけとんぼの会/共育(ともいく)の会/NPO法人のらんど/埼玉県移送サービスネットワーク/TOKO/さやまのペンギン村/誰もが共に生きる地域をめざすべんぎん村/キャベツの会・新座共育研究会/地域活動支援センターめだか工房/NPO 法人とことこの家



7.11 憲法カフェで

7月11日(金)生活クラブ生協越谷ブロック地域協議会主催により、同生協越谷センター会議室で「憲法カフェ」が開かれました。

各自の日々のちょっとしたもやもや話を出し合う中で、「生存権」とか「基本的人権」とか「戦争放棄」とか、ふだんタマエとして流してしまっている「権利」のイメージを具体的にしてみようといったひととき。進行役デビューは、世一緒に手伝っている理工学系の学生・比嘉さん。

新出生前診断、よみがえる優生保護



きっかけづくりの語り手は、世一緒に事務局の障害当事者・日吉さん。

まずは旧優生保護法が違憲と認められ、補償が決まったのに、申し立てをする被害者がほんの少ししかない問題。手術をやった側に記録があるのに、一律に連絡を取って補償をしないから闇の中。何も解決してません。

一方で、新型出生前診断を普及させ、生まれる前に遺伝子操作をして障害児を排除しようとしています。法は、選別ではなく、産む・産まないは親が決めるという。私の母は私が生まれたことで、親せきからいろいろ言われた。私は子供心にも「お母さんが選んで産んだんじゃない」と思っていました。親戚はかわいがってくれましたが、私が見てないところで、そういう言葉を母に投げました。

障害児が生まれるのがわかっていて産んだら、母以上に辛い言葉を投げかけられるだろうなと思います。

私は人類がアフリカを出てからここまで地球上にはびこったのは、いろんな人がいて、その中には障害者になる遺伝子を含めて多様性があつたからこそ、生き残ってきたんじゃないかという思いがあります。

新しい形でどんどん障害がピックアップされて、それを覚悟して産んだ親に対して、今の世の中は、私の母よりもっと、顔も知らない人から責め立てられます。そう思うと腹立たしい。そういう選択をした人をほめたたえて、よくぞ生んでくれたと、いろんな人が手を貸して、世の中がちょっと変わっていけばいいという思いがあります。

「向こうも被害者だよ」って思いも

もうひとつ。バリアフリー法やいろんな法律ができ、ありがたいのかよくわからないです。

かって企業に初出勤した時、面接の時にはなかった手すりが付いていて、??? 上司に尋ねたら、日吉さんへの配慮だという答えに啞然。「ありがたいけど、なんで私

に訊かないで、想像で付けちゃったんですか」彼は目からうろこ。しばらく二人で見つめ合っていました。

私の時は、話ができる同僚と話すと、自分が育ってきた保育所、学校で、障害がある子供と出会う機会がなかった人が99%。私とつきあうようになって、「障害者って明るいね」「いいけど・・・暗いのもいるよ」

ほんとに障害者と切り離されて育ったがゆえに、向こうも被害者だよ」っていう思いもありました。子ども時代から一緒に育った方がいいよねという話をしていました。

バリアフリー法に基づいた設計のトイレを開けた時、おむつ交換のベッドが広がっていて中へ入れなかったり。

向こうの事情があると思うのですが、何かアリバイ的な感じがします。もう少し本人たちの意見を聞いてもらいたい。当事者がいないで作るのは、仏作って魂入れずだと思えます。

いろんな人がいることがいい

日吉さんの話を聴いて、みんなの一言：

・私の生まれ育った島には、重い障害をもった人の社会資源が何もなく。病気の重い人、車椅子が必要な人は、生まれたら一かして引っ越していった。



・昔、道路の隔壁が自動車を基準に設計され、バイクだと寝るので頭をぶつけてしまう事故が起こった時も「合理的配慮」という言葉を聞いた。

・バリアフリーについて私達の意見を聴いてほしかった。
・子どもの世界を構成する時に、いろんな人がいることがいいと実感する。

・お友達のお子さんが車いすで特別支援学校を出て、卒業後も介護を受けて生活している。私自身は普通の学校で学び卒業したが、聴きながら書いたりなど苦手なことがあり、クリニックで調べて障害がわかった。たくさん話が聴けてよかった。

・教育の県交渉、がんばりましょう。

普通学級に分けられて生きてきた

比嘉さんまとめ：

今日、自分は普通の学級に分けられて生きてきたんだと思った。「合理的配慮」とか「特支学級の子は〇〇していかなくないでしょ」と学んだり、言葉から入って、分けられて過ごしてきた。障害者がいないことがあたりまえだったから、バリアフリーのこととか、まちがった結果になっちゃったのかなと思った。ふれあったり、感じたりしながら入って、いろんなことを感じていきたい。





●総会、ワークショップの感想

今日はいろいろな話がありました。自分の事は皆によく話せました。越谷世一緒がせんげん台世一緒の近くにいこうすることがわかりました。皆、いろいろなやみやいけんがありました。

今日はいろいろな話が聞けて、勉強になりました。(新井里佳)

○今の私

今、私は精神科に行ってきた、躁うつと言う診断を受けました。でも、診断を受けても今は、何ともないです。後は、相談支援では、B型事業所に行くための相談をしています。その他は、趣味のカードゲームをしたり、秋葉原に行ったりしています。

少しずつB型事業所に行けるようにしていきたいです。(田辺雄太)

●シンポをきいて

幡本さんのフラッシュバックの話が印象に残りました。柴田さんが過去にいろいろな仕事をしているのを知りおどろいた。(会沢 完)

○私の希望

障害者の方々やご老人も含めての職場参加的活動、広まって頂きたい！

●ワークショップを終えて

ごちゃごちゃ もやもやし続けることが職場参加かな？

○早く就職したい

就職を早くしたい。もやもやはしているが、今年金をもらっているが、今住んでいる所が5万で月2500円しか残らないので、働かなくてはいけないのです。今年65才なので、アルバイトでもいいので、早く働きたい。

●柴田さんの人生に感動

柴田さんのたくましく生きぬく人生に感動しました。職場参加をすすめるためにも、当事者の生き方、人生感を大切に、それ基本に社会参加のあり方を本人に考えてもらうことが大切だと直感しました。

○もやもやが大事

シンポジウムはもやもやが増加する結果となりました。むしろ、もやもやが大事で、共に学んだから共に働ける訳でもないし、常に迷ったり困ったりしながら、それでも共にいき続ける事が大事なのではと感じました。

●世一緒の皆様へ

昨今 人材不足が指摘されています。障害者でも

人材として働ける人が欲しいです。

当事者同志の結婚がクローズアップされていく。

合理的な配慮の為、苦勞されている。

○2025年6月25日 NPO 障害者の職場参加をすすめる会 総会記念シンポジウム

中山さん 一般就労したから成功例で、福祉就労だから失敗例という話ではない。

大塚さん 自閉的傾向の強い男の子が担当校のクラスに二人してすごくいじめられたりした。いろんな人がいて一緒に生きていくんだという感覚を持つことが大事。

今日は、有意義な話が沢山聞けました。参加してよかったです。ありがとうございます。(幡本 建佑)

●語る会に久しぶりに参加して

今日の語る会は0さんと会えると思いました。それなのに、ざんねんながら0さんと会えなかったらものすごくさみしいです。栗ちゃんのいっぱいいっぱいいだいすきな0さんです。今日久しぶりに語る会世一緒10時に来ました。最近コロナインフルエンザかかっているから世一緒10時に語る会来れなかったからなみださみしかったです。今日10時に語る会にせかっくいっておくこうざぶろうさんとあいにくのものすごくたのしみにしてたんです。これだけりっちゃんは10時に語る会じゃないんだ、おくれたので、ぜんぜんしらなかったです。りっちゃんのたくさんいすきなひがみひでしさん、山下ひろしさんと日吉孝子さんと0さん、内野さんとみんなとあいたいです。よろしくおねがいします。

カーブスは2月1日きょねんからいって1年たちました。カーブスの山崎有子さんといっしょにカーブス行くのいっぱいしあわせすぎるぞ。(久保田栗子)

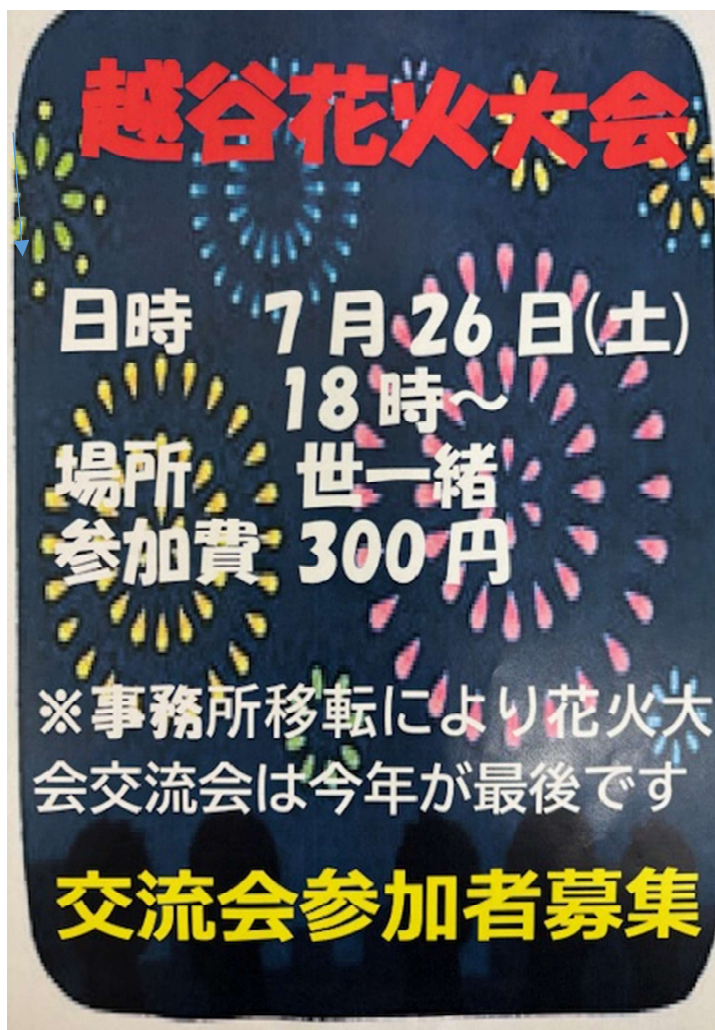
○さいきんのうれしかったこと

4月2日おばあちゃんが83才でなくなってしまったんですがそれはそれはとてもつらかった。母親みたいにいつもなんかあるたびにそばにいてくれた。ケンかもたくさんした。このまま2人で死ぬかというぐらい言いあらそいもしました。

おばあちゃんの死は実感がありません。でもうれしいことはむすめに会えてたくさん話したくさんできて、大きくなって私より大人になっていました。思うことはたくさんありますが、おばあちゃんが併せてくれたようなことします。(森住由香里)

●よいしょのでんわばん

わたしはおおぶろにすんでいるもののゆきえです。さいきんはぐらいわるくて、ねつでたりしてやすんでいました。あさ、かいじょくるのは、じぎょうしよ。土よう日、日ようびのあさはともだちはいつてくれています。わたしがよいしょにきたころ、でんわばんのしごとどうですかとはなしがあって、よいしょのでんわばんにくることにしました。(友野由紀恵)



埼玉障害者市民ネットワーク主催

総合県交渉へ

第1日目：8月21日（木）

10:00～16:30（途中休憩あり）

埼玉会館7B会議室

第2日目：9月5日（金）

13:30～16:30

埼玉会館3C会議室

越谷の本部世一緒がせんげん台に引っ越します！



長らくみなさんの集いの場として親しまれてきた東越谷の「世一緒」は、この秋の初めごろに、せんげん台西に引っ越します。八年前からその地で活動している就労継続B型とより密接に連携して、職場参加のバトンを受け継いでゆけるよう最大限の後押しをするためです。

今後とも、みなさんのとのつながりはいっそう大切にして活動しますので、よろしくお願いいたします。